

◇山ノ上古墳出土

斜縁二神二獸鏡しやえん

(古墳時代前期(四世紀))

直径一八・二cm

山ノ上古墳は、栗東市安養寺に所在した古墳です。昭和三五年に名神高速道路建設の事前発掘調査によって確認されました。

しかし、この時すでに墳丘は大きく削平されており、古墳の規模や形状については明らかにされていません。そのため、安養寺丘陵に存在する他の古墳と同様とし、直径三〇から四〇m程度の円墳と考えることが一般的になっています。また、埋葬施設についても粘土槨が確認されていますが、これも詳細は明らかではありません。

今回紹介する斜縁二神二獸鏡は、この粘土槨の中央付近から鉄剣、玉類とともに出土したものです。若干の錆やひびが見られますが、良好な状態の鏡面と言えます。

内区は四つの乳文によって四等分し、それぞれに神像もしくは獣像を描きます。神像は二体ずつ描かれているようにも見えますが、主神は東王父と西王母で、それぞれに侍仙が付属する表現です。不鮮明な部分が多いのですが、東王父は三山冠を戴き、やや首をかしげたような表

現です。獸形は、白虎と青龍を表現しています。顔を正面に向けているのが白虎で、顔が斜めを向いて表現されるのが青龍です。

内区の周囲には銘文帯が巡ります。「吾作明竟幽凜三商 競德序道 曾年益寿 子」と読め、子孫繁栄を祈る吉祥句です。その周囲には、櫛歯文、鋸歯文、複線波文、鋸歯文が巡り、外周突線を経て、緩やかな斜縁に続きます。

こうした特徴を持つ鏡は、中国の後漢時代末期頃に造られたと考えられますが、铸上がりが鈍く、文様が不鮮明であることから、西晋など後の時代に踏み返し技法で作られた可能性も考えられます。

なお栗東市内からは、近接する安養寺大塚越古墳からも、直径一四・二cmの斜縁二神二獸鏡が出土しています。

(細川修平)



山ノ上古墳出土 斜縁二神二獸鏡